

多くの人が納得する。 そんな、あたりまえの政治が この街には必要です。

下水道料金の値上げには、もっと良い時期があったのに、
そうしなかった政治が、この街には、まだあるんです。というはなし。

宝塚市議会議員 大川裕之



宝塚の未来を考える 第10回 「下水道料金の値上げについて」

① 赤字経営が続き、運転資金が枯渇。その原因は…。

下水道と言っても、私たちが日常使っている生活廃水を流す「汚水(おすい)」と道路上の雨水を流す「雨水(うすい)」の2種類に分かれます。

基本的に、私たちが支払っている下水道料金は、汚水の処理や管路建設に使われており、雨水の管路建設などには税金が使われています。しかし、実際は料金だけではまかなえず、汚水にも税金を使っています。

平成17年度までは、約73%を税金で負担していましたが、他市(西宮44%、神戸20%)との比較の結果、平成18年度から50%に、平成21年度からは44%に負担比率を下げました。

この頃から、下水道の財政は悪化し、20億円以上あった基金で何とか凌いできましたが、平成23年には底をつきました。

このままでは、来年度には、資金が枯渇し、財政破綻します。

② 上水道から6億円を借り入れ、今年度の破綻を回避。

先送りの結果、破綻回避のために新たに6億円もの借金をしました。これだけの借金をしても、その効果は今年度のみで、来年度の財政破綻は回避できません。

ですから、今年度中に根本的な解決策を実行する必要があります。

最も即効性のある料金値上げですが、消費税の5→8%や8→10%への増税時期と重なるため、市民の負担感はいつそう大きくなります。

安定的な経営には、料金を13~15%値上げする必要がありますが、消費増税と合わせると20%程度の負担増になります。

一方で、40億円を超える跡地購入を進め、一度廃止した技能労務職の採用を開始するなど、財政負担を増す政策を着々と進めています。「問題は先送りし、行革は進まない。」では、多くの納得がえられる政治とは言えません。

③ 市長選前だからという理由で、この問題を先送りか。

実は、税金の負担割合が下がると決まったときから、平成25年度には、資金が枯渇すると予想されていました。

ですから、金利の高い借金を繰り上げ返済し、利息負担を減らすなどの工夫は行ってきました。しかし、本来なら、これと平行して値上げの議論を始め、市民に情報公開しながら、理解を得ていくのが、根本的な解決するための常道だといえます。

ましてや、平成24年度には、水道料金体系の一部見直しを行っており、実質的な値下げを実施しています。このタイミングでの値上げであれば、一体で徴収されるため、負担感は軽減され、理解を得やすいはずです。

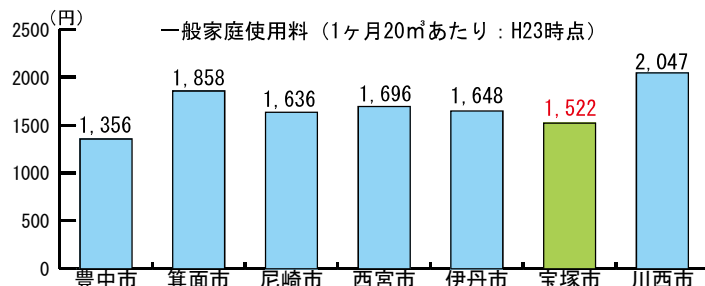
それを敢えてしなかったのは、市長選前の値上げを避けたくか考えられず、そうであれば、合理的かつ公正な判断ができない政治と言わねばなりません。

④ 役所に代わって言います。値上げはやっぱり必要です。

来年の4月に統一地方選が行われます。私もそこで選挙があるわけですが、未来に責任ある立場として言います。「値上げは必要です」と。

下のグラフを見ていただければ分かるように、近隣市と

の比較では、低料金の部類です。また、類似団体の平均は1,745円で、それより200円以上も差があります。行革の推進は当然としても、安定的な経営を脅かしてまで低料金を維持する理由はありません。



⑨ より経費削減をするには、抜本的改革が必要です。

値上げの前に、経費削減を徹底的にすることのほうが先ではないのか？というご意見は、必ずあるでしょう。

しかし、**下水道事業における支出で最も多いのは、減価償却費と借金の返済(それぞれ20～30億円)で、次いで利息と流域下水道維持管理費負担金(それぞれ7～8億円)です。**総支出は80億円前後で、これら4項目の合計は、60～65億円となっています。詳しい説明は省きま

すが、これらは、毎年ほぼ固定的に支払うべきもので、削減の対象にはなりにくいものです。

つまり、15～20億円の経費が削減の対象で、ここから3億円の経費を削減しようとするには、抜本的な改革が必要です。

まちの急激な人口増に伴って短期間で整備するために、事業規模に見合わないほどの借金をしました。その結果、返済や減価償却費が膨らんでいるというのが下水道事業の現状です。

⑩ 抜本的改革とは、高コスト体質の官から民への移行。

これまで、下水道事業といえば、水洗化のための整備が中心でした。これも、100%近い整備率となった今、整備中心から管理中心へと事業内容が変わっていきます。

人口減少だけでなく、節水の意識も高まり、今後も使用量が増えていかないと予想される中で、高コスト体質を残したままでは立ち行かなくなります。

そこで、現在、研究されているのが、管理事業を包括的に委

託することや施設運営権の売却(コンセッション方式)などの民間活力を活用した方法です。

下水道事業に限らず、これからの行政は、自らが事業者となるのではなく、管理や監視を主体としたマネジメントに移行していくべきです。

【流域下水道維持管理費負担金とは】
流域下水道とは、流域内にある複数の市町村の下水を行政区画をこえて、効率的に収集・処理した後、河川等に放流する仕組みのことで、原則として、都道府県が建設および維持管理を行っています。この維持管理に必要な費用を流域の市町村で負担しています。

議会での質問を動画で見ることが出来ます。

本会議のインターネット中継を行っています。私のこれまでの本会議での発言は、ホームページでご覧いただけます。ぜひ一度、ご視聴を。

→詳細はホームページで。

大川ひろゆき



ホームページでもご覧いただけます！

私と太誠会がそれぞれ発行しているビュは、過去の方も含めてホームページからご覧いただけます。

→詳細はホームページで。

大川ひろゆき



代表質問をしました。(3月議会)

市長の施政方針に対して、会派を代表して質問しました。ガーデンフィールズ跡地の活用について、ハコモリ整備ありきの公務員の発想からの転換を示唆する質問です。多くの方から賛同いただき、好評でした。私のホームページに動画を掲載しています。



杉田水脈 衆議院議員 国政報告会で挨拶。

平成26年3月21日に宝塚ホテルで開催され、250名の方にお集まりいただきました。ゲストには中田宏衆議院議員を迎え、杉田衆議院議員は河野談話の見直しについて報告しました。私は宝塚市政の現状と3月議会の内容を報告しました。



日本維新の会は党員を募集しています！

日本維新の会では党員を募集しています。日本維新の会の綱領に賛同していただける18歳以上の日本国民であれば、どなたでも結構です。

お申し込みは 杉田水脈事務所まで。TEL 0797-69-6651



Profile

- S49.9.26生(39歳) てんびん座 AB型 逆瀬台1丁目在住
- 妻、長男(中1)、長女(5歳)、次男(2歳)

- 大阪府立 高津高校 卒業 (H5)
- 大阪大学 工学部 土木工学科 卒業 (H10)
- 東京都庁 (H10-16)
- 関西学院大学大学院 総合政策研究科 修了 (H19)
- 宝塚市議会議員選挙 初当選 (H23 5位/34人中)

Contact

Mail : info@hirokyu-ookawa.com
URL : http://hirokyu-ookawa.com
TEL : 080-7700-7798



宝塚市議会議員

大川裕之

